

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

新名人に聞く

三味線と米寿



絃 名人
佐々木偉市
(大東支部)

この度、絃の名人位を頂き、誠にありがとうございました。これも偏に皆様の絶大なご支援の賜と深く感謝申し上げます。

私は、昭和三十年に初めて三味線の審査を受けました。受けるまで三年はありましたが、その間、仲間と練習をしておりまして、「そろそろ審査を受けたら」と言われ、受けたところ、「一級です」と発表され、びっくりしました。当時の審査員の先生は、初代安達順吉先生、初代渡部音吉先生、二代目出雲愛之助先生の三名で、「よく弾かれたました、良かったですよ」と褒められ、嬉しかったです。現在は、私も審査員を務めています。初審査で一級になる方は滅多にいません。特に三味線は技量が伴い、唄い手が唄いやすくなるように導いてあげると良いです。音色を出すよう技で強弱のリズムを刻む事が大事であると思います。それをやらないと音色の大事さがわからないと思います。まずはバチで音色を出し、指でも音色を出すと全体の三味線の音色につながります。糸を打つ時、バチを糸のせてしている方もいますが、それはいけません。糸にあたらぬ所から糸にあてるようにすると、打つと同時に音が出ますので、やってみてください。音色が変わりますから上手になったと思うようになります。一技の音色が長く聞けるようになり、それが出来ると面白くなります。なぜ胴に皮が張ってあるのか、バチで皮を打たないと安来節の三味線にはなりません。

胴の皮をバチで打つ事によって、安来節の三味線の味が出ます。

現在は、唄も横に平らに唄う事が多いです。一節前半の留めの高さが上がらないで、萎ませて上げると上がりますので、それ自分の三味線の高さの三の糸の十一のツボから十二のツボの音を出すと、高低差が出て、良い唄になると思います。六十二年間で色んな唄と出合い、やっぱり高低差があると三味線を弾いてもはずんで出来ません。唄は高い山、低い谷がないと唄にはなりませんし、それに合わせて引いたり、押ししたりしながら横一線の上で声を出して唄うと唄になります。まずは、自分でやってみる事が大事です。色々な事を言いましたが、悪しからずお許しください。

これからも皆様と共に命ある限り頑張りたいと思っております。年は、八十八歳ですが、気持ちには六十六歳です。

この度は、大勢の方々にお祝いを頂き、厚く御礼を申し上げます。

私事ですが、和歌山の高野山普賢院の仏生堂の中の仏様に「佐々木偉市」と名前が刻んでありますので、行かれたら御堂の中を見てみてください。

ありがとうございます。

プロフィール

生年月日 昭和七年三月十五日(八十七歳)

保存会役職 資格審査員

入会年月日 昭和三十年一月入会

活動記録 現在 地域の小学生を対象にした三味線教室での講師

その他 平成十三年 アメリカ・ニューヨーク・カーネギーホールでの安来節公演に参加。玉造温泉旅館での安来節公演等。

優勝大会での入賞歴 師範・絃の部 第三位(昭和五十四年)

私と安来節



唄 准名人
二代目 高山保子
(松江支部)

この度、安来節保存会より唄准名人を戴き、誠にありがとうございました。

これも偏に先人の諸先生方、松江支部の皆様、関係者の皆様の御支援の賜物と深く感謝申し上げますと共に、身の引き締まる思いでございます。

安来節との出会い

隠岐の島で育った私には、安来節の唄すべてが縁遠い事でした。

昭和五十九年だったと思いますが、公民館で唄の民謡教室が始まり、最初は全国民謡から入りましたが、その後、島根県の代表的な安来節を習い始めました。

昭和六十年五月、本部道場で唄の審査を受け、二級を戴いたのが始まりで、八月の全国優勝大会では、優勝させて戴きました。何が何だか分からないまま頑張つて続けようと思うようになりましたが、先生の教えてくださるようには、なかなか思うように出来なくて、続けるか迷っていました。

その頃、長唄の先生との出会いがあり、長唄を少し習い、丁寧に唄うという事は、母音をつける事に気が付き、だんだんと練習が楽しくなり、一生懸命頑張るようになりました。何をしても継続する事は難しく、挫折しそうな事もありましたが、会員の皆さんから励まされ、あの時、退会していたら今日は無かつたと思います。また、平成十八年に安来節演芸館が開館し、約十二年にわたって出演させて戴きました事で、他の支部の皆さんとの交流ができ、多くの方々と共に過ごした事が良い思い出となりました。安来節保存会に入っていたから、現在でも良き生徒さんにも恵まれ、楽しく教室もしております。現在も五代目富田徳之助師匠に、唄と三味線を指導して戴いておりますが、奥が深く、唄の難しさ、芸の深さや礼儀作法等、厳しく教えていただき、芸道を学んでおります。

これからも、続く限り安来節発展のために微力ながら努力いたします。皆様、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

安来節保存会 大江戸支部

下記教室にてお稽古しています。
上京の際、お時間があればお電話ください。
東京案内いたします。

- 江東教室 (森脇 忍) : 03-3615-0888
- 世田谷教室 (地崎昭範) : 03-3307-3261
- 東久留米教室 (一字川清子) : 042-472-2841
- 多摩教室 (渡部 広) : 042-584-6525

支部情報

静岡支部創立十周年を迎えて



静岡支部長 濱崎正道珠

周年記念大会を開催いたしました。安来節保存会事務局より専務理事内田修次様をご来賓としてお迎えし、またゲスト出演では家元四代目渡部お糸先生、絃准名人五代目富田徳之助先生、唄准名人野々村府美枝先生をお招きし、盛大な形で十周年記念大会が取り行なわれたことは、専務理事並びに諸先生方のお陰と深く感謝している次第です。

平成二十一年三月七日に発足いたしました静岡支部は、設立以来安来節を通して多くの仲間と共に人格や人徳を磨かせていただきながら「焦らず慌てず諦めず」「継続は力なり」の精神で一步一步歩んで参りました。安来節の知名度を大いに生かしながら会員の皆様

の英知を結集し、すべての情報を集約し、時代のニーズに合った企画活動を忍耐強く続けることで静岡支部の発展と運営に努めて参りました。一方安来節の技術向上を目指し、東は沼津から西は浜松までの広範囲に渡つての教室指導活動、また会員確保のための宣伝普及活動と各種イベント行事等に意欲的に取り組んで参りました。今、全国的に民謡団体が高齢化により低迷する中、私達静岡支部は十周年を迎えた現在一七名の会員を確保できました事はひとえに会員の皆様の努力の賜物と深く感謝している所でございます。



月日の流れは早いもので大江戸支部設立から十五年。安来節保存会設立一〇八年、他支部の年数には足元にも及ばないが、支部長としての責務を担つての十五年の歳月には感無量の思いです。



大江戸支部長 森脇 忍

大江戸支部十五周年

十周年を迎えるにあたって、これからの安来節、今後の静岡支部が新しい新体制のもと日本を代表する民謡安来節の唄の魅力、三味と鼓の音色、銭太鼓の妙技、ユーモアあふれる男踊りに共鳴し、会員と共に力を結集し、静岡支部発展の道に繋げて行きたいと思っております。

平成十五年十一月設立、絃名人二代目安達順吉先生、唄准名人故郷の境港東支部、唄准名人榎野

暉夫先生を始め、友人にも恵まれ温かく迎えて戴きました。平成十九年度のブロック予選会や全国大会まで共に戦い、ご支援も戴き、お陰様で平成三十年から関東ブロックとし、今日に至りましたことを感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、十五年目の節目「会員の思い出になる行事」をと、一年程前から話し合い、準備を進めてきた表題は『十五周年記念発表会』と決まりました。当日、十一月二十四日は、専務理事の内田修次様、五代目富田徳之助先生、濱崎正人先生や会員、友人他で会場はうまりました。



オープニングは「安来節・三味線合奏」で始まり、次いで会員二人による「舞・寿獅子」で十五年周年を祝いました。

第一部は「上手も下手も自慢の安来節」の唄、踊り、銭太鼓三味は、立派な緞帳付舞台上に緊張を隠せない皆々でした。東京・大江戸支部の採点は？。会食を終えた後の式典では、ご来賓の皆様より支部の今後へ有り難いエールを戴き、誠にありがとうございます。



第二部は、会員の演芸に加え、民謡歌手、踊りの師匠さん、元会員、関東支部、松江支部の皆様にご友情出演をして戴き、素晴らしい芸を披露して戴きました。また、五代目富田徳之助先生は安来節、津軽、一般民謡の地方、濱崎正人先生ご夫妻は銭太鼓、民謡民舞、傘踊り等々に続き、専務理事内田修次様の安来節は初めて聞いた節回しで、さすが安来節保存会専務理事、二本を期待したが一本でのトリとなりました。

『十五周年記念発表会』を飾るに相応しい充実した内容の数々を皆様に披露して戴き、大変楽しんで戴きました。会員のみならず、ご来場して戴いた大勢のお客様方からも「皆様の演技に感動した！見がいがあった！素晴らしい舞台をたっふりと堪能させて戴いた等々」沢山の声がかかれ、主催者としては反省もあるが、ホッと胸をなで下ろしたところです。平成最後の大行事『十五周年記念発表会』は終わったが、年号が変わっても来年、再来年と大江戸支部は会員一同元気で楽しく集いたいと思います。友情出演の元会員から「安来節のおかげで九十歳の今まで元気に生きてこれた。皆さん、これからも安来節を唄い長生きしてください」と故郷（雲南市木次町出身）の安来節が唄えたことに喜び、涙され、勇気を戴きました。

最後に大江戸支部は、今後も民謡団体、区・個人のボランティア活動にもこれまで通り所属し、活動いたします。会員の六割が高齢者となつた今、体に気を付けながら東京の地で「安来節」を唄い、踊り続けて行くつもりです。

佐々木偉市絃名人 昇格祝賀会を 盛大に開催しました



小 桜 未 鳥
(大東支部)

去る二月十二日大東地域交流センターを会場に安来節保存会副会長(安来市副市長) 森脇光成様を始め、ご来賓五十三名を支部会員二十五名でお迎えして盛大に開催しました。

絃の部では四年ぶりとなり、名人誕生は大東支部で二代目出雲愛之助先生、上代茂則先生に次ぐ名人であり、大変名誉な事であり喜ばしい事です。

いいつつあん先生は、昭和七年生まれの八十八歳で米寿祝いと重なり、お目出度尽くしの年明けです。資格審査を務めるなど熱心に指導されており、支部としても

出来る範囲で応援が出来ればと思います。

支部長の下、会員一丸となって

記念撮影の後、午前十一時から祝賀会を開始し、ご来賓のご祝辞を頂きました後に名人昇格記念の安来節披露、乾杯の後には、家元四代目渡部お糸様の唐人お吉を五代目富田徳之助様の絃、鼓名人原文男様によって特別出演を頂きました。この後は、名人、准名人と順次出演があり、終了予定時刻もどうなる事かと心配する中、何と二十五組の出演を頂きましたが、大東支部会員が準備をしていた古

来から松江市美保関町の美保神社に伝わるホーライエツチャと関の五本松節を唄と踊りの披露で締めくくる事が出来ました。その節にご協力、ご出演して頂き



ましたご来賓の皆様はこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。

これから

も大東支部三十八名の会員が一人でも増える様に、またそれぞれの会員の技量向上を目指して参りますので、一層のご指導

ご鞭撻のほどを賜りますようお願い申し上げます。



初めての 安来節から十五年



河内美代子
(大江戸支部)

「何か面白い事はないかな？」と思っていた時、センター祭りがあり、会場を覗いて見ました。笑いの渦の中で奇妙な姿をした女性が楽しそうに軽やかに踊っておられた、その方は後藤さんという方でした。

「ああ、面白そうだ」と思い、平成十五年に妹も誘い入会しました。渡部先生のご指導のもと、どじょう

掬い踊りを体験しましたが、ただ見ているのと大違いで、頭へザルを乗せて一歩、歩みをすすめるとザルが滑り落ちるので、落ちないように考えなければなりません。また歩くのも膝を足の親指が隠れる位に腰を曲げ、そのままの姿勢を最後まで保とうとしますが、苦しいので腰を高くすると「低く低く」と注意され、「何と大変な踊りなんだろう」と思いましたが、「挑戦するぞ」と力

い始めました。きちんと正座をして美しくピンと背筋を伸ばし、銭太鼓を小気味よく叩くそのリズムで唄も唄い楽しくて好きな時間、色々な曲を優しく、丁寧に教えて頂きました。唄は息継ぎがとて難しく、注意力散漫な私についてはいけるか神経がピリピリして苦勞しました。二人の先生に熱心に指導していただきましたが、どうも上手に唄えませんでした。

平成二十五年頃より持病がムックリ起き上がり、ジリジリと私の身体をいじめ始め、どうしてこんな事にと焦り、怒り、悲しみが交錯する中で踊りはとうとう出来なくなり見学してしまいました。銭太鼓も正座が出来なくなり、また右腕も上がらなくなり、先生が心配して、どうしたら打てるか色々と考えていただきましたが、痛みは先走りどんなに姿勢を変えても工夫してもダメでした。そんな事で審査は諦めるしかありませんでしたが、今も仲間の皆さんと一緒に唄や踊り、銭太鼓を続けています。こんな痛みの不安の中で十五年の月日が過ぎていきました。ペン先だけでは表現しきれない数々の宝物「天下の安来節」におこがましくも挑戦し、出合えた有意義な十五年でした。渡部先生や森脇先生をはじめ多くの会員の皆様、ありがとうございました。一歩でも進める限り稽古は続けて行こうと思っております。

会員の声「コーナー」

今を生きる



広野正則
(仁多支部)

平成最後の本年、私たち仁多支部の前身仁多民謡教室は、今年開設満四十周年を迎えます。

昭和五十四年三月十一日、講師に

准名人出雲俊之助先生、来賓に准名人松浦保潔先生、准名人佐藤孝昭先生並びに故准名人富田英好先生、以上加茂支部の重鎮の先生方をお迎えして「発会式」を准名人富田とみお先生宅において盛大に行われ、即、加茂支部の承認をいただきました。(資格は現在)

当日は、三十数名の参加者で「押すな、押すな」の賑わいで座が落ちはせぬかの驚嘆の船出でした。この熱気は冷めることなく暮れの忘年会を「玉造温泉・白石家」で行われ、各自が自慢の喉で十八番の連発、男

女の年齢の差の隔てなく盛り上がり、翌朝解散の筈が誰一人として発つ者無く、急遽予定を変更し、「美保関」へ車を飛ばし、「東光ホテル」へ雪崩れ込み、昼食だけの筈がまたまた宴会となり、もう一晩「ここで騒ごう」という人まであり、幹事として嬉しいやら苦しいやら頭を悩ませられた記憶は今も鮮明に頭に浮かびます。

本格的に研鑽に本腰をとる思いから仁多町(現・奥出雲町)の後援を賜わり、中央公民館において講習会が開かれました。講師に二代目出雲愛之助先生並びに三代目出雲愛之助先生にお二方にご来町いただきました。参加者が余りにも大勢のため、二階と三階に振り分けた有様でした。血沸き肉おどる躍動感溢れる活気の

中、教室開設から四年後にお世話になった加茂支部さんと惜別の思いで袂を分かち仁多支部が誕生しました。そんな初期の盛り上がりも徐々に技倆の難しさ、厳しさが身に染みて誰とはなく歯が抜けこぼれるが如く減少したのが現実です。これまでの有資格者では師範以上は故人の方、退会者を含めるとかなりの人が輩出されて来ましたが、今年も唄の大師範に小早川盛世さんが昇格されました。

絃准名人富田とみお先生を師と仰ぎ、優勝大会「師範の部・踊」で三年連続優勝された大師範で支部長の深田英治さんをトップに仁多支部は大同団結して新時代に向かって思いも新たに前進することを年頭の初会に誓い合い祝杯をあげました。



「何か面白い事はないかな？」と思っていた時、センター祭りがあり、会場を覗いて見ました。笑いの渦の中で奇妙な姿をした女性が楽しそうに軽やかに踊っておられた、その方は後藤さんという方でした。

ある日、森脇支部長がご指導の銭太鼓を初めて見て、興味が湧き、習

アラッ、エッサンサーで
最新もそして
来世も楽しく



清野 勝利
(東北支部長)

上野正彦監察医の著書「死体監察医の告白」で上野正彦監察医曰く、人の絶命はすなわち虚無の世界である。

それならば、生前を楽しく愉快に過ごすべきと考える。死が即虚無ならば、墓地も不要と思われ、樹木葬で始末して頂きたく、先般家族の同意を得て、お寺と契約を締結した。

自分の死後の処置を決めた事で、精神的に気軽になったようだ。すると遊び心で自分の葬儀から極楽浄土までの旅を想像してみた。それが最近願望に変わった。

通夜は、ベートーベンの葬送行進曲英雄交響曲の第二楽章に対抗し、安来節のように掬いの曲を。涙は不要。踊りたい方は楽しく踊るが良い。これは妻も了解済みである。告別式は、素唄「安来安来と 駅呼ぶ声に 見れば間近に十神山」を流して頂き、あの世へと。ここまでは喪主にお願ひし実行するが、死、即虚無では、余りにも寂しいので、この先はこうあって欲しい願望と空想の世界である。先程の素唄を聞きながら、安来に寄って生前安来節全国優勝大会に出場した会場の安来市民体育館前を通り、当時を偲びながら、次に踊り大師範の免状を賜った安来節演芸館の前で、安来節に感謝を込めて二礼三拍し三途の川へと。三途の川にどじょうが生息しているのかな？遊び心でどじょうを掬ってみるか。興味と恐怖心が混合した複雑なおもいで、朱塗りの門を潜り眼光炯炯の

閻魔大王の前に。そして極楽か地獄行きかの閻魔大王の判定が。大王曰く「生前お前は、国民として義務を十分に果たし、退職後は安来節どじょう掬い踊りと銭太鼓で、多くの人々に笑いと幸せを差し上げ、社会福祉に多大に貢献した。依って極楽行きを命ずる」なんとも嬉しい命令だ。欣喜雀躍。これも全て安来節の御利益だと、安来節に感謝し、ビクとザル、そして銭太鼓を携えて早々とお釈迦様のもとへと。

の状況でしたので、話を聞いても全く意味不明。特に「おいとさん」と話の中で何回も出てくる言葉に私は、「民謡だから三味線の糸の話だと思っただけ、随分丁寧な、糸に「お」を付けて言うなんて、高級な糸で産地はどこなのだろう？」と、不思議な気持ちで聞いていました。そして何回か一緒にボランティアをする中で、キラキラ光る銭太鼓という芸に魅力を感じ、何人かで習い始めたのが「安来節」との最初の出合いです。

〇〇県特産の糸？



安美奈子
(本部道場)

長年企業に勤務していたある日、アフターファイブの席で「そろそろ世の中にお返しする年になって来たので、何かしたいね」という話になり、話し合う中でそれぞれの特技を持ち寄り、芸能ボランティアとの意見に全員が賛成し、始めたのが、まずだれ、日舞、エレクトーン等、芸達者が多く集まり、楽しいボランティア活動が始まりました。

二、三年が過ぎた頃、変わった芸の持ち主を探していたところ、社員以外に近隣で面白い芸をする市民がいるという話から、初めて私は安来節（どじょうすくい踊り、銭太鼓）を知りました。民謡は全く興味がなく、ましてや「安来節」とは一体何？

安来節怖い



中村 進二
(和歌山支部)

私は、子供の頃から恥かしがり屋で、小学校では音楽の時間が一番苦手でした。音痴なうえに人前で歌ったりする事は、苦痛以外の何物でもありませんでした。そんな私も、会社員となり、モーレッツ社員として何かとストレスを感じていた時に「これは仕事以外に何か趣味を持たなければ」と始めたのが民謡でした。日本各地の民謡、色々な民謡がある事が驚きでした。中でも島根県の「安来節」宴会の席などで目にするどじょうすくいあのユーモラスな踊り、本当に楽しいものです。子供の頃、どじょうは大の仲良しで、よく家の前の小川で、手で掴まえたり、水槽で飼ったりと、身近で愛する存在でした。今では、どじょうは姿を消して久しく残念ですが、安来節を通じてどじょうを懐かしく思い出ししております。その安来節ですが、踊りの方はまた無理ですが、せめて唄を一つでも唄えたらと思ひ、十数年前から習っていますが、これがこんなに難しいものとは思いませんでした。「饅頭怖い」と言う落語があり、ますが、これは、男が「饅頭が怖い」と言うので「それでは皆で怖がらせてやろう」と、仲間達からいっぱい饅頭を押し付けられるが、男は実は饅頭が好物で、陰でこっそり全部食べてしまうという話ですが、私の場合、「安来節怖い」です。これは、真正銘怖いのです。他の民謡と違い、声の出し方、音程等どれ一つとつても今までは、全然勝手が違います。元々、音感、リズムの

悪い私、私には身に余る先生の御指導を頂いておりますが、まだまだ未熟で申し訳なく思います。現在、唄の部で師範昇格審査に何年も挑戦し続けています。運とか偶然で受かる程、現実には甘くなく、実力のみの世界である事を十分実感している次第です。

今年こそ、まず肩の力を抜き、楽しく、そして一生懸命頑張ります。「安来節怖い」から「安来節楽しい」を目指して、今日も「ドーンツテン」明日も「ドーンツテン！」。

●会報「安来節」に原稿をお寄せください。

4月と12月に発行する会報「安来節」にご寄稿をお待ちしております。安来節との出会いや思い、支部の活動や発表会、保存会の今後などなど題は自由です。いずれも1,000字程度で寄稿者の顔写真（1年以内の物で使用後は返却します）も併せて送ってください。

※ 応募多数の場合は、繰り越す事もございますので、あらかじめご了承ください。

お知らせ
事務局からの



安来節の魅力を追う!!

安来節が全国を一世風靡した魅力は何か。もっと安来節の面白さを知る方法はないか。

自主研修と支部交流の実績から完成した基礎研修のしおり発行。

安来節が楽しくなる基礎知識の勉強の仕方。出雲街道民謡交流会の活動はますます発展します。(自由入会・無料)

主宰/渡部孝夫 090-2809-1233

書籍紹介：基礎知識の「唄われて100年の魅力」モチベーションアップの「甦る安来節」



出雲街道民謡交流会

平成31年唄い初め会支部競演結果

- | | | | | |
|----------|-----|----|----|----|
| 安来市長賞 | 加松本 | 茂江 | 道支 | 場部 |
| 安来市議会賞 | 関 | 江部 | 支道 | 部場 |
| 安来市観光協会賞 | 本 | 部 | 支支 | 部部 |
| 安来商工会議所賞 | 関 | 西 | 支支 | 部部 |
| BSS山陰放送賞 | 本 | 島 | 支支 | 部部 |
| 足立美術館賞 | 関 | 子 | 支支 | 部部 |
| 家納喜賞 | 本 | 多 | 支支 | 部部 |
| 安来節演芸館賞 | 関 | 陵 | 支支 | 部部 |